

●水環境・湖沼 (1) (1-B-9-1～1-B-10-2)

本セッションでは、湖沼の水質保全に関する 6 件の研究発表が行われた。

1-B-9-1 では、近年富栄養化や pH 上昇等の水質悪化の傾向が認められる猪苗代湖について、その実態調査の結果とともに、水質保全上の課題と対策に関する検討結果が報告された。また、本発表と関連する 1-B-10-2 では、同湖北部水域における現地調査と室内実験の結果を基に、水生植物の増殖と pH 上昇との関連性が報告された。これらの発表に対して、湖水 pH に対する凍結防止剤の流入（新聞報道あり）や大気 CO₂ の溶解、湖水の pH 緩衝作用等の影響について議論された。

1-B-9-2 では、アオコの発生が顕著な小笠原母島の乳房ダムにおいて、空芯菜栽培による窒素・リンの除去量、並びにこれを利用した水質改善対策について報告された。この発表に対して、湖面の遮光によるアオコの発生防止対策の有効性や、浄水方法として最新の緩速ろ過法の採用による水質改善等について議論された。

1-B-9-3 では、ダム湖における水質の鉛直分布計測データを利用した秋季成層時の DO 低下現象の解析結果、並びにこのデータに基づく水質管理の検討結果が報告された。この発表に対して、観測された DO の鉛直分布が不連続になっている理由とともに、DO に対する深層暴気装置の影響や底泥による DO 消費との関連等について議論された。

1-B-9-4 では、富栄養化の進行で水質問題が顕在化する八郎湖において、1996 年以來ほぼ毎日の水質・水量観測から得られた湖内への窒素・リン負荷量について報告された。この発表に対して、八郎湖流域でのリンの収支や海水流入によるアオコの発生防止等について議論された。

1-B-10-1 では、諏訪湖流域の暗渠排水施設を有する水田において、肥料成分の流出量を全面および側条施肥条件下で比較した結果について報告された。この発表に対して、八郎湖の場合は諏訪湖とは異なり、側条施肥の方が肥料成分の流出量が少ないことが指摘され、その原因（暗渠排水施設の機能等）について議論された。

(静岡県立大学環境科学研究所 坂田 昌弘)